

島根県立石見美術館

特別展「赤い服／白い服」の開催ならびに開会式の開催について

島根県立石見美術館では、特別展「赤い服／白い服」を下記のとおり開催いたします。また、開幕を記念し、開会式を開催いたします。※開会式の概要は2枚目をご参照ください。

記

【展覧会】

- 会期** 2019年12月18日(水)～2020年2月3日(月)
 休館日：毎週火曜日 開館時間：10:00～18:30(展示室への入場は18:00まで)
- 会場** 島根県立石見美術館 展示室A(グラントワ内)
- 概要**

赤と白、二つの色に注目し衣服について考える展覧会です。赤と白は日本では『古事記』の中にも確認できる、最古の色として知られます。前者は火や血に通じ、生命力や呪力を、後者は神の化身らが纏う色として登場し、清らかな神聖さを表すとも言われます。今日では、祭礼や祝祭の場面に加え、競技や勝負事の場面においても用いられます。1964年に開催された第1回東京オリンピックの開会式では、紅白のユニフォームに身を包んだ日本選手団の華々しい姿が、日本中を沸かせました。赤のジャケットに、男子は白のパンツ、女子は同じく白のプリーツスカートというデザインで、これ以降スポーツの国際大会に用いられるユニフォームには赤と白の2色が用いられることが増えたとも言われています。

本展では衣装作品や雑誌、版画などを展覧し、衣服においてこの2つの色に期待された役割や、色の持つ効果、デザイナー(制作者)の意図などを探ります。また、当館で2020年秋に開催予定の企画展「ファッション イン ジャパン 1945-2020」が、同年開催の2度目の東京オリンピックにちなんだ内容であることから、この展覧会をそのキックオフイベントとして位置づけ、1964年の第1回東京オリンピック関連資料も展示する予定です。

*この展覧会は「日本博」参画プロジェクトの一つ、「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」の関連展示です。



森英恵 《帯地風に仕立てた生地を使ったコート、イブニングドレス》
1968年、島根県立石見美術館蔵



ジャン=フィリップ・ウォルト
《ウェディングドレス》
1916年、島根県立石見美術館蔵



美津濃
《ウォームアップスーツ》
1964年、浜田市立原井小学校蔵

【特別展「赤い服／白い服」開会式】

1. 日 時 2019年12月18日（水）9時30分～

※受付は9時～

2. 会 場 島根県立石見美術館 前室（展示室Aの前）

3. 式次第

- ・ 主催者挨拶
島根県立石見美術館 館長 澄川喜一

- ・ 担当学芸員挨拶
島根県立石見美術館 主任学芸員 廣田理紗

- ・ 作品解説

4. 出席者 グラントワボランティア会の皆様、展覧会ご出品者の方々

以上

※別途、民間の配信サービスを利用し情報発信する予定です。